

【手を加えた日本語の推薦状】

私は株式会社シャフトエンタープライズ内の総合経営企画本部内にて課長職を拝命しており、主に海外部門の統括を預かっていますが、その中で加納くんには私の直属として従事してもらっており、2014年6月から現在まで同じチームとして職務に携わっています。

彼とは2014年2月にシンガポールで、当時弊社が手掛けていた「黒い車両6号機プロジェクト」の成果発表報告会で初めて知り合いました。彼の発表する成果の中で私が一番関心を寄せたのがコンサルティング業務についてであり、3か月という限定的な研修期間の中で、ゼロからスタートする全く新しいプロジェクトであるにも関わらず、新型鉄道軌道を現実のものとするためのオペレーションに必要な組織の人数・規模・配置箇所など、将来像を子細にわたり決定するなど確実な成果を上げていることに目をみはりました。その上で、弊社が手掛ける鉄道インフラ全般を輸出するためのビジョンが明確であり、それに対するパッション、積極的な行動力が非常に高く内在していると感じ、2014年6月から私の部署に来てもらえるよう強く希望いたしました。

彼がこれまでに手掛けてきた様々なプロジェクトはどれも成果が高く、中でも特に管理能力が非凡であると考えております。彼の能力の高さの一つの例として、“陸のコンコルド”と呼ばれる次世代型の「新世代音速車両プロジェクト」の立ち上げ時の準備の良さ、必要人員を組織する際のあざやかな手際について紹介いたします。

弊社では現在、国家事業として広く知られているリニア新幹線開通の、更にもその先にある“次世代新型車両”についての開発プロジェクトをスタートさせているのですが、20年以内の車両完成、そして運行の実現を目指しており、開発自体については国の認可もお約束いただいております。

この大きなプロジェクトを進めるのにあたり、まず最上位にある国や自治体との関わりを十全に把握することは大前提として、それを基盤に、弊社社員が全員で一丸となって取り組むべき重要なこの課題を実現するには、20年という大きなスパンをいかに効率よく推進してゆくか、隅々までに配慮した組織づくりがプロジェクトの肝となってきます。超長期にわたる大規模な計画立案、噛み砕いていえば「誰が、何を、いつまでに、どのようにして」進めるのか、その全体像の俯瞰図を彼がほぼ一人で手掛けました。

彼が手掛けたその敲き台に基づき、次世代車両の開発は現在、彼の手を離れてはおりますが、非常にスムーズに進行しています。本社保属わずか1年目で、国家プロジェクトの一翼を担える彼のマネジメント能力は、他の誰も真似のできない、傑出した能力であると考えております。

それに加え、業務に対する改善案や会社全体にまで目の及ぶその意欲の高さ、主体性のある発言や思考能力など、単なる経営的な物差しを超えて、社会に対する影響力さえも彼は有していると感じております。

会社での自分の部下だからもてはやしているのではなく、ごく個人的な判断としても私は彼を強く推薦いたしますし、それは弊社の役員や社員の誰もが忌憚なく感じていることだと思います。弊社で最も忙しい部署に所属する彼が、業務を滞らせることなく自身の学習時間を確保し、貴校の学生として申し分ない準備を成し得たことは、ひとえに彼の情熱の賜物だと思っています。英語学習についてだけはいささかの不安を残しているとのことですが、これまでの経歴や経験、そして何より、その情熱と努力とを充分にご高察いただき、貴校への入学をご判断いただきたくお願い申し上げます。